

すみよし

第 62 号

発行所 社会福祉法人 一寿会
仙台市泉区住吉台西二丁目7番地6
電話 022-379-8030
発行者 理事長 関野 愉

■住吉台こども園	仙台市泉区住吉台西二丁目7番地6	TEL (022) 379-0164
■仙萩苑 (障害者支援施設)	仙台市泉区住吉台西二丁目7番地6	TEL (022) 379-8030
■一寿園 (就労継続支援B型事業)	仙台市太白区富田字南ノ西26番地	TEL (022) 243-3447
■長命ヶ丘つくしこども園	仙台市泉区長命ヶ丘三丁目20番10	TEL (022) 772-0035
■名取みたぞのこども園	名取市美田園五丁目3番地5	TEL (022) 784-1020
■名取あけぼのこども園	名取市増田六丁目1番40号	TEL (022) 382-2711

印刷 令和4年10月28日

発行 令和4年10月31日



■ 仙萩苑 (p7)

■ 住吉台こども園

- ・水遊び
- ・運動遊び



(p2)

■ 長命ヶ丘つくしこども園

- ・七夕誕生会
- ・マラカス作り
- ・陶芸体験

(p3～p4)



■ 名取みたぞのこども園

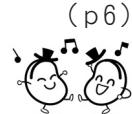
- ・どうもろこしの皮むき
- ・夏の色水遊び
- ・まなびタイム

(p4～p5)



■ 名取あけぼのこども園

- ・そら豆のさやむき
- ・夏祭り



(p6)

■ 仙萩苑

- ・夏祭り
- ・賀寿の会

(p7)



■ 一寿園

- ・パソコン部門お仕事紹介

(p8)



住吉台幼稚園

水遊び



六月二十八日に、0、1、2歳児のプール開きがありました。保育教諭が、ペープサートで分かりやすく説明し、安全に楽しめるようお話をすると、みんな真剣なお顔でしっかりとお話しを聞くことが出来ました。天気の良い日にさっそくお水を準備し、おもちゃも浮かべて準備完了。お集まりで、水着に着替えることをお話すると、嬉しそうにワクワクしながら着替えさせてもらうのを待っている姿が見られました。

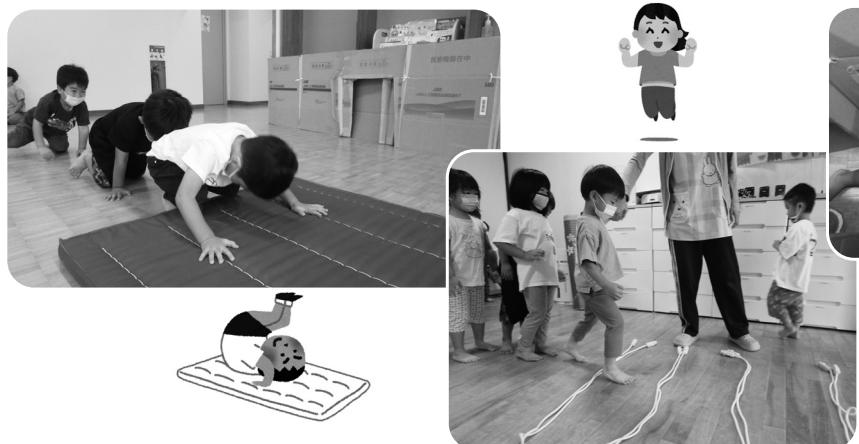
（保育教諭 横山 純子）

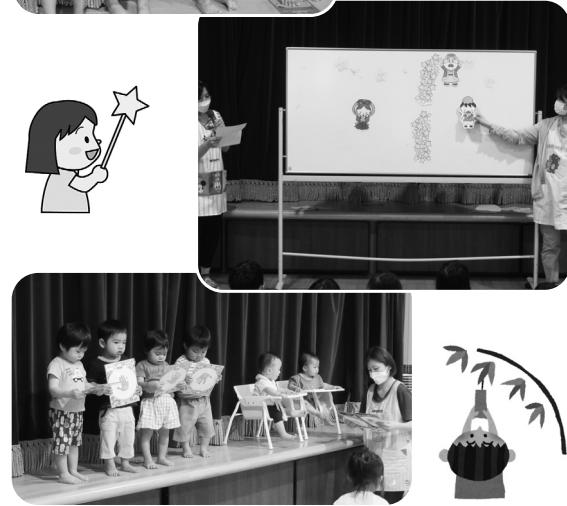
「きやー！」と歓声を上げて大喜び。小さなバケツに水を入れたり、出した水をかけたり、出した水を浴びる姿も見られました。保育教諭がホースの水を噴水にする、気持ち良さそうに水を浴びる姿も見られました。水遊びが終わりお着替えをしながら「気持ち良かったね」と語りかけると、みんなにっこり。沢山水に触れて、夏の遊びを存分に楽しむことが出来ました。来年は、大きなプールで思いっきり楽しむことが出来たらいいなと思っています。

運動会に向け、三歳児クラスで運動遊びを行いました。体操教室で両足跳びは繰り返し行つてきました。徐々に慣れ始め縄跳びの上を連続で跳んだり、少し高さがある所も足を揃えて跳躍することが出来るようになりました。片足で跳ぶことは始めは苦戦していましたがリズム遊びの「トンボのめがね」では、片足でバランスを取り立つ練習をすることで保育教諭と手を繋ぎ縄跳びの上を連続で跳ぶことが出来るようになりました。「出来た」「手を繋いだら怖くない」と出来るようになったことを喜ぶ姿が沢山見られました。マット遊びでは二歳児クラスより前転の練習をしてきたことで頭を上手に中に入れ自分で回ることが出来るようになります。回った後のポーズも格好よく出来るように練習しているところです。迷路は初めてだった為ワクワクした様子で友だちと一緒に中に入り楽しむ姿がありました。行き止まりにぶつかり「ここ通れない」と引き返したり上から顔を出したりと大興奮で汗をかきながらハイハイをしてゴールを目指していました。今後も室内での運動遊びが充実するような活動を取り入れ様々な体験

をしていきたいと思います。
（保育教諭 渋谷 有美）

運動遊び





七月七日に、七夕誕生会がありました。小さいクラスのお友だちは、足スパンで野菜の形を作ったり、織姫と彦星の洋服にペンで絵を描いた七夕の製作を、ステージの上で緊張しながら発表した後、大きな声で誕生日の歌を皆で歌って、お誕生日のお友だちをお祝いしました。大きいクラスのお友だちは、職員のお楽しみ「七夕さま」のパネルシアターを見ました。その後、

七夕誕生会



織姫と彦星が天の川をどのように渡るかクイズをし、短冊の他に飾られているかの着物や扇入れがなぜ飾られているかお話を聞いた後「たなばたさま」の歌を皆で歌い、楽しく誕生会に参加することが出来ました。その日の給食は誕生日会の特別メニュー！「七夕そぞめん」「星のコロッケ」「七夕ゼリー」とお星さまいっぱいのメニューで「お星さまだ！きらきらだね！」とお友だちや先生に知らせ、嬉しそうに沢山食べていました。こども園の玄関などの笹に飾られた自分の短冊を見つけ、お父さんやお母さんに一生懸命教える姿もあり、とても楽しい一日になりました。

(保育教諭 坂本 実優)

（保育教諭 坂本 実優）

八月十八日、厳しい暑さや天候不良が続き、戸外で遊ぶことが出来なかつた為、一歳児クラスでは室内で楽しめる活動、手作りのマラカス作りを行いました。最初に作り方のお話をすると、やってみたいというキラキラとした眼差しで溢れていました。作り方の説明を聞いた後、マラカス作リスタート！以前おやつで食べたアイスクリームのカップに細かく切ったストローを入れ、自分のオリジナルマラカスを作りました。子どもたちはカラフルなシールを貼つて可愛くデコレーションをしました。指先を使って台紙からシールを剥がし、一ヶ所に集中して貼る子、まんべんなく全体に貼り出す子、保育教諭と一緒にどこに貼ろうか考えながら取り組む子と様々な姿が見られました。貼り終えると「せんせー、できたー！」と嬉しそうに見せてくれる姿がどんどん増えていき、全員が満足して貼り終えたところで、みんなでフリリシャカシャカして音を鳴らしてみました。その後、広い場所へと移動し、

（保育教諭 岡本 千裕）

マラカス作り



て鳴らしてみました。リズムに乗りながらマラカスも体も一生懸命揺らしながら樂しむ子どもたちが可愛かったです。楽器としてだけではなく、積み重ねたり、並べたり、転がしたりしても遊べることを知ると、再び目をキラキラさせながら遊び始める子どもたち。最後まで満足して楽しむことが出来ました。今後も様々な廃材を利用した手作り玩具を作り、造形や表現して遊ぶことの楽しさを子どもたちと一緒に感じていきたいと思っています。

(保育教諭 岡本 千裕)

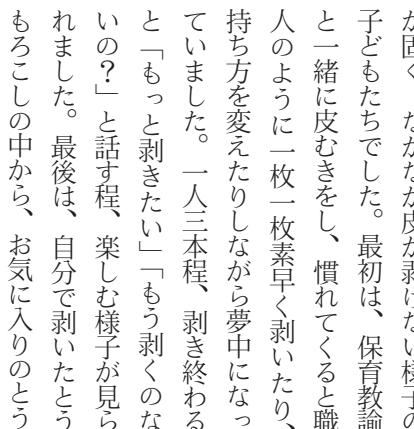
陶芸体験



九月一日に年長クラスが秋保の石神窯に行き、お皿作りを体験してきました。年長になって初めての大きなバス。見つけた瞬間大喜びで、運転手さんに「お願いします」と元気に挨拶をしていました。先生から作り方の説明をしてもらい、見せてもらうと「僕も早くやりたい」とやる気いっぱいでした。手の平で優しく叩いて粘土を平らに伸ばしたり、皿の形を整え竹串で絵を描きました。特に皿の淵を立てるところが難しかったようでしたが「こうかな?」とお友だち同士で確認し合ったり、先生に手伝ってもらしながら自分がイメージしたお皿の形にしていきました。お皿にはカブトムシや家など事前に考えた絵を描き「できた!」と満

足した様子でした。完成した後は皆で作品を見て「上手だね」と褒め合いました。先生からご褒美に星のスタンプを貰うと、とても嬉しそうでした。その後は先生から特別に電動のろくろで作品を作る様子を見せてもらうことができました。自分たちと同じ粘土があっという間にひょうたん型になったり湯呑のような形に変わる姿を見て大興奮でした。陶芸体験の次は待ちに待ったお弁当の時間。近くにある秋保市民センターで食べました。朝から「お弁当は?」ととても楽しみにしていたお友だちが沢山いて、お家の方が作ってくれたお弁当には大好物が沢山入っていました。お天気も良く、素敵なお弁当になりました。お天気も良くなりますが楽しみに待ちたいと思いません。
（保育教諭 相野谷 菜美子）

名取みたごとのこども園



七月十日に、三歳児クラスでとうもろこしの皮むきを行いました。とうもろこしの絵本を見ながら皮むきをすることや、何枚も重なっている皮とひげを剥くことを伝えると、「とうもろこしの髪の毛も忘れずにね」「大きいとうもろこしかな」と期待を言葉にする子どもたちでした。実際に剥くとうもろこしを見て「なんか匂いがする」「髪の毛、黒いね」と、発見や気付いたことを話していました。とうもろこしを剥く前の手洗いも、普段よりも念入りに行う様子が見られました。皮むきをする際には、思っている以上に皮が固く、なかなか皮が剥けない様子の人のように一枚一枚素早く剥いたり、持ち方を変えたりしながら夢中になっていました。一人三本程、剥き終わると「もっと剥きたい」「もう剥くのないの?」と話す程、楽しむ様子が見られました。最後は、自分で剥いたとうもろこしの中から、お気に入りのとう



もろこしを持って写真を撮りました。剥いたとうもろこしが午後のおやつに出てくると、目を輝かせて大事そうに食べる子どもたちの姿が可愛らしかったです。今後も旬の野菜に触れる機会を作っていく思います。

（保育教諭 鈴木 すずき 奈菜 ななみこ）



夏の色水遊び

今まで金魚すくいやスポンジ等で水遊びをしてきたことで、水遊びが大好きになった一歳児のりす組さん。今日は、七月二十七日にクラスで、色水遊びをした際の様子をお伝え致します。

「今日は色水で遊ぶよ」と実際に食紅入りのペットボトルに水を入れると、色の変化に目を丸くして驚くりす組さん。「やる！」と意欲的に、準備ができるのを心待ちにしていました。タライに水を張り、実際に色水作りに挑戦

です。始めは戸惑う姿が見られていましたが、ペットボトルに水を入れ、色が変わっていく様子を見ると「わー」と喜んでいました。色の違いにも気付く姿があり「あか」「きいろ」と色の名前を言いながらペットボトルを振ったりペットボトルを水の中に入れると、ドボンと音がすることを楽しむ姿がありました。また、カップで水をすくい、顔や腕に水が跳ねる感触を味わっていました。また、カップで水をすくい、自分の足や手にかけて水の冷たさや、心地良さを感じていた子どもたちでした。今後も子どもたちの発見や興味を見逃さず、季節ならではの遊びができるようにしていきたいと思います。

(保育教諭 橋村 麻奈)



まなびタイム



七月二十八日、年長児らいおん組で第八回目となるまなびタイムが行われました。普段からひらがな表を用いて手紙を書いたり、トランプ遊びを楽しんだりと、文字や数に興味を持つ遊びに取り入れていた子どもたち。まなびタイムでの様々な言葉遊びや数遊びを通して、文字や数字への興味関心や理解がより一層深まっているように感じます。今回は、ひらがなの「や、ゆ、よ」のつく言葉探しや文字合わせゲーム、数字並べゲームをし、文字と数について楽しみながら学びました。

数字並べゲームでは、三人一組のチームで、1~10の数字が書かれたバラバラのカードを順番に並べます。「私はこっちを並べるね」「7の次は8だよ」等、役割分担をしたり声を掛け合ったりとチームの友だちと協力し合いながら並べ替え、ゲームを大いに楽しんでいました。文字遊び、数遊びの後は、ペーパーワークに取り組みます。子どもたちは、講師の話を真剣な表情で聞き、一つ一つの文字を丁寧に書きながら取り組んでいました。一生懸命書いた文字に「頑張ったね」「上手に書けたね」と講師や保育教諭から赤ペンで



花丸を書いてもらうと、とても嬉しそうにその花丸を眺める子どもたちでした。これからも、まなびタイムでの取り組みを通して、文字や数への興味関心を深めると共に、文字や数を使った遊びや表現をより楽しめるように、保育でも取り入れていきたいと思います。

(保育教諭 手代木 優稀子)

五月三十一日に手洗い指導とそら豆のさやむきがありました。手洗い指導では栄養士がどんな時に手を洗うかクイズを出しながら分かりやすく手洗いの仕方を教えてくれました。その後の手洗いでは「こうやって洗うんだよね」と教えてもらった洗い方で上手に洗っていた子どもたちです。さやむきでは、各クラスで「そらまめくんのベット」という絵本を見て豆に興味を持つたり「そら豆の中には保育教諭があるのかな?」と考えたりする姿がありました。さやむきの前には保育教諭がそら豆以外に色々な豆を用意し大きさを比べながらよりそら豆に対して興味が沸くようにしていきました。実際にそら豆を目にする「大きいね」「硬い」と色々な発見に気付く子どもたちでした。三歳児は保育教諭と一緒にさやを剥ぎ、四、五歳児は自分の力でさやを剥こうする姿がありました。実際に中を見てみると豆の大きさに驚いたり、綿に触れながら「本当にフカフカしてる」と発見を楽しんだりしていました。

名取あけぼのこども園

そら豆のさやむき



剥いたそら豆は午後のおやつでおにぎりの具として子どもたちに提供しました。自分たちが剥いた豆だと知ると喜んで食べたり苦手な子も進んで食べようとしたりする姿が見られました。今後も子どもたちに色々な食材に触れる機会を作っていきたいと思います。

(保育教諭 中水 唯)



夏 祭 り



七月一日にホールで夏祭りが行われました。この日を迎えるまで、練り歩きや名取風来の練習を一生懸命頑張ってきた子どもたちは、当日法被に身を包み、期待感を持ちながら登園する姿が見られました。今年は三部制で行われ、一部は0・一歳児からとなりました。保育教諭による練り歩きでは、0・一歳児なりに「ピッピ」「わっしょい」と掛け声しようとするとする姿がありました。アンパン音頭も保護者と一緒に楽しい霧雨氣を味わいながら楽しむ姿が見られました。二部では、一・三歳児の練り歩きが行われ、三歳児が練習以上の

笑顔でお神輿を担ぎ練り歩きをする姿が見られ、二歳児の子どもたちも手拍子をしながら盛り上がる姿が見られました。三部では、五歳児が司会も務め、緊張感を持ちながら自信を持って練り歩きをする姿が見られました。四・五歳児は「名取風来」の踊りも披露し、保育教諭や友だちと一緒に頑張る姿が見られ、とても格好良かつたです。それぞれのコーナーは親子で一緒に回り触れ合い遊びをしたり、水ヨーコーやおめんをもらい保育教諭や保護者に笑顔で報告したりと夏祭りならではの関わりが沢山見られました。今後も子どもたちの楽しさに共感しながら、様々な経験をして欲しいと思います。

(保育教諭 山田 歩未)



(生活支援員 熊谷 泰伸)

七月二十四日、仙萩苑夏祭りが開催されました。夏祭りといえば縁日です。箱の中から何が当たるか三角くじ引き、本格的なライフル銃で景品を狙う射的にボールを当てていくストラックアウト、夏祭りの看板とひまわりの花を背景にした写真撮影。利用者の皆さんはこれらの縁日屋台を一つ一つ巡りながらそれぞれの場所でお菓子や日用雑貨品、衣類品などの景品をゲットする度に喜び、楽しまれていました。食事会では焼きそば、焼き鳥等お祭りらしいメニューに錦糸卵の海老しんじょう、揚げ物の盛り合わせ等普段とは違うメニューに舌鼓して「美味しかったね」と笑顔がみられて夏本番に向けて英気を養わっていました。



七月二十四日、仙萩苑夏祭りが開催されました。夏祭りといえば縁日です。箱の中から何が当たるか三角くじ引き、本格的なライフル銃で景品を狙う射的にボールを当てていくストラックアウト、夏祭りの看板とひまわりの花を背景にした写真撮影。利用者の皆さんはこれらの縁日屋台を一つ一つ巡りながらそれぞれの場所でお菓子や日用雑貨品、衣類品などの景品をゲットする度に喜び、楽しまれていました。食事会では焼きそば、焼き鳥等お祭りらしいメニューに錦糸卵の海老しんじょう、揚げ物の盛り合わせ等普段とは違うメニューに舌鼓して「美味しかったね」と笑顔がみられて夏本番に向けて英気を養わっていました。



(生活支援員 加藤 幸恩)

九月十八日、仙萩苑で賀寿の会が開催されました。今年は、職員の出し物で楽しんでいただいた後、祝年の方々のお祝いで、卒寿、傘寿、還暦の三名の方に記念品や表彰状を贈呈しました。出し物は「マジックショーン」で、ド派手な衣装に身を包み「マジシャン」に扮した職員がバルーンアートを作りながら登場し、数種類のマジックを披露し、最後は箱の中から手紙を取り出す、というもので入居者も真剣な表情で見入っていました。ご家族からの手紙を職員が代読すると、感激のあまり涙する場面も見られました。食事は寿司、茶碗蒸し、お吸い物、デザートの抹茶寒天も「おいしかった」「お腹いっぱい」と笑顔が見られました。

賀寿の会

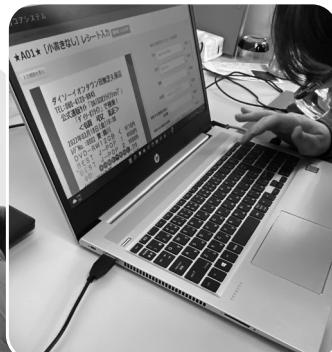


今回は一寿園パソコン部門のお仕事をします。利用者さんの作業時間は、十時三十分～十五時三十分まで。その中で利用者さんは作業訓練であつたり、生産活動をして過ごしています。BPOの仕事を請け負っています。BPOとは、会社の業務を外部委託することを言います。様々な会社の一部の仕事を事業所で請負って、工賃を稼ぐという仕組みです。今、パソコン部門ではレシートの入力業務を請け負つております。利用者さんは日々その業務に奮闘しています。最初はレシート入力のルール（決まり事）を覚える所からスタートしたのですが、マニュアルが沢山あるので頭がパニックになつていました。税率のことやら非課税のルールが沢山あります。頭に叩き込むという感じ。ルールを覚えたら最終的にトライアルテストを受けます。このテストに合格してやっと本番の作業ができるようになります。しかし合格への道のりは遠く、再テスト、再々テスト、

紹介をします。利用者さんの作業時間は、十時三十分～十五時三十分まで。その中で利用者さんは作業訓練であつたり、生産活動をして過ごしています。昨年末辺りからパソコン部門ではBPOの仕事を請け負っています。

業時間前からパソコンに向かう姿を見かけると、以前よりやる気を感じ、こちらも嬉しくなります。何より自分たちが貢献できているとか、工賃に反映されるという喜びが大きいのではないでしようか。

(職業指導員 渡辺 寿子)



編集後記

今年も、もう11月。大人になるとあっという間に1年が過ぎてゆくのはなぜ？それは、トキメキがなくなるかららしいです。印象に残る出来事「トキメキ」らしく、トキメキが多いほど〈時間が長く感じる〉ようです。毎日同じことの繰り返しだと新鮮味がなく時間は早く感じ、印象に残る出来事が多ければ多いほど時間の流れは遅く感じるというのが人間心理のようです。では来年は、印象に残る出来事を増やしていくこう思います！ちなみに時間が早く過ぎるように感じる年齢のボーダーは、19歳からのようです。